

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1172800516
法人名	社会福祉法人 永仁会
事業所名	グループホームSAKURA
所在地	〒358-0026 埼玉県入間市大字小谷田1656-1 (電話) 04-2963-4801

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年2月27日

【情報提供票より】(平成20年12月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	13 人	常勤 8人, 非常勤 5人, 常勤換算	11.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	4階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり 1,500円		

(4) 利用者の概要(12月24日現在)

利用者人数	12 名	男性	0 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	78 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	人間ハート病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、小高い丘の上にある特別養護老人ホームの1階にあり、2ユニットで12名の利用者が生活をしている。全居室の出入り口に個別のトイレと洗面所があるため、プライバシーが守られて落ち着いた環境にある。食事は法人内で調理された副食がホームに届けられており、行事食などは利用者と一緒に手作りもしている。医療面でのケアでは、法人の看護師が日に3回訪れる他、受診の付き添いにも同行するなど連携がとれている。新規の利用者には馴染みの関係にあるデイサービスや訪問介護の職員もかわり、安心した暮らしを継続するための工夫がみられる。ホームと同じフロアにある地域交流スペースは地域の人々の活動拠点にもなっており、利用者は催し物を見学したり交流も行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で改善課題に挙げられた家族等への報告を、ホーム便り「SAKURA」の発行をもって開始した。また、重度化や終末期に向けた方針の共有については、看取りに関する方針を再調整した。運営推進会議を活かした取り組みについては、平成21年4月の開催に向けて準備を進めている。同業者との交流については、県のグループホーム協議会に登録をして活動の一步を踏み出している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価に取り組み、職員会議で話し合いをした上で最終的にまとめている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議に関しては、参加者の調整がつかないことから開催が延期されてきたが、平成21年4月の第1回会議開催に向けて準備が進められている段階である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情窓口などについて明記し説明している。家族が利用する玄関には意見箱を設置しているが、現在はあまり活用されていない。家族の面会が多いため来所時には意見や要望に耳を傾け、介護計画等に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣への散歩や買い物だけでなく、ボランティアの定期的な訪問や地域交流スペースを活用した地域の方々のかかわりなど、ホーム内外でのつながりが増えてきており、地域との連携が深まってきている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流を持ちながら過ごせる環境を作り、その人らしく暮らせる生活を目指して、グループホームの基本理念、さらには具体的な方針や支援を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護職員の名札の裏面には、ホームの理念が入れてあり、折に触れて確認することができる。職員は理念を共有して日々実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームに隣接した地域交流スペースは、地域の人々の交流会や発表会などに活用されており、時には利用者も見学をして交流を持っている。また、書道などの趣味活動には、ボランティアによる訪問が定期的にあるほか、地域行事に招待された際や散歩の機会にも触れ合いのひと時が持たれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で各項目の自己評価を行い、職員会議で話し合った結果を最終的な自己評価とした。また、前回の外部評価の改善点を活かし、ホーム便りの発行を開始するなど、全職員で協力しながらサービスの向上を目指して意欲的に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方など参加者の調整がつかずに運営推進会議の開催が延期されてきたが、平成21年4月に第1回の会議を開催する予定である。		地域との連携をさらに深めて理解を得るためにも、運営推進会議の開催を実現して定期的に行い、サービスの向上に活かしていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の中でグループホームとしての相談や報告を行うとともに、状況に応じてグループホームでも連絡をとるようにして市町村との連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	今年度より年に数回、ホーム便り「SAKURA通信」の発行を開始している。家族の面会が多いことから、来所時に直接報告するほか、家族への便りには利用者の手紙や写真も通信と一緒に同封して喜ばれている。また、家族懇談会を年1回開催しており、必要に応じて面談も行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が使用している玄関に意見箱を設けているが、現在はあまり活用はされていない。面会時や家族懇談会等の機会に家族の意見に耳を傾け、職員は家族が話をしやすい雰囲気作りに努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者と職員との面談の機会を設けるなどして、職員が離職しないための関係作りに取り組んでおり、離職者は少ない。法人内の介護職員の異動を最小限度に抑え、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で研修に取り組んでおり、新人研修や中堅職員研修、緊急時の対応やリスクマネジメントなどの法人内研修を実施している。また、外部研修には職員が順番で参加している。研修参加後は報告書を作成し、伝達研修を通して全職員で共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に登録はしているが、会への参加はしていない。グループホームは市内に3か所あるが交流の機会は少ない状況にある。		グループホームの同業者間で交流や連携をしながら、より一層サービスの質の向上に取り組んでいくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始に当たっては、在宅時に利用していた訪問介護やデイサービス、ショートステイなどの馴染みの関係にあった職員の支援も受けながら関係性を築く配慮をしている。今後はお試し入居などを検討していく意向である。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>毎日の掃除、洗濯物たたみ、畑仕事などを共に行い、学びながら支えあう生活を築きながら、一方通行にならない支援に努めている。利用者を職員は日々の生活の中で思いを分かち合い、時には菜園で収穫した食材が食卓に並ぶ喜びも共有している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>何気ない毎日の会話から、利用者の思いや希望を把握して記録に留め、その人らしい暮らし方の支援につなげている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の思いや家族の希望を受け止めながら、利用者ができることを視点に会議で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>全職員参加の職員会議が毎月2回開かれ、介護計画の作成や見直しなどが行われている。家族や利用者の思いを尊重しながら心身の状態をアセスメントしており、必要に応じて介護計画の見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の外出や外泊に柔軟に対応したり、受診などには法人の看護師が付き添い医療面のアドバイスを受けている。また、夜間においても隣接の特別養護老人ホームの介護職員との協力体制がとられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診には、法人の看護師が付き添いをしている。看護師は毎日、朝、昼、夕とグループホームへ巡回に来て利用者の個別記録を作成しており、受診時はそれを持参して対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの介護について、法人の方針としての「看取りに関する指針」を作成し理念を確立したが、まだ具体化していない状態であり、利用者や家族間の希望書の整備を進めているところである。		他職種間の連携を含めた方針の具体化を進めるとともに、利用者、家族、関係者と話し合いを重ね、具体的な方針の共有を図っていくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりに穏やかな声かけで対応しており、利用者同士の会話にもさりげなく入りながら、和やかな雰囲気作りに努めている。記録類はユニットの間の事務室で保管がされている。トイレと洗面所は全居室横に利用者専用のものであるなど、プライバシーを尊重した造りになっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホームの日課はあるが、その日の利用者の心身状態や希望に応じて柔軟に対応している。職員は、利用者の様子を見守り、一人ひとりのペースに合わせた支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内で一括調理された副食を盛り付け、配膳している。職員も一緒に食卓を囲んでおり、食堂の横にある台所では、お米を研いだり食後の片付けなどを利用者も一緒に行っている。また、食事作りを楽しみたい利用者もいるため、行事食などを手作りしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ利用者の希望にそった入浴となるよう心掛けながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアの協力も得ながら趣味の習字をしたり、庭に菜園を作り食卓に彩を添えるなど、日々の楽しみ方や役割を共に考え、生活の中で利用者の力を発揮できるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣へ散歩に行ったり車で外食に出かけるなど、外出の機会を作っている。今後は個々の希望に合わせた個別の外出の機会も多く計画したい意向である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設の老人ホームと共有の玄関を使用しており、家族の訪問時等は玄関チャイムを押してもらい職員が開錠している。ただし、職員は利用者を見守り、外出したい様子が見受けられた際は付き添うなどの支援をしている。また、中庭へはそれぞれのユニットから自由に出ることができる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備え、法人内の特別養護老人ホーム、デイサービス、在宅介護支援センターなどの職員との連携が図られており、定期的に訓練を実施している。地域の人々の協力を得るまでには至っていない。		併設施設との連携はとれていることから、今後は町内会等を通して近隣に働きかけるなどして、地域との協力体制を整えていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により食事の栄養管理がなされている。また、食事や水分の摂取量の記録を付け、必要に応じて看護師に相談をし、食事形態等に工夫しながら状態に合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、居間、食堂は一つの空間にあり、どの居室からも行き来がしやすい設計となっている。トイレと洗面所は全居室横に個別に用意がされているため、落ち着いて排泄や口腔ケアができる。食堂のソファーをはじめ、一段高くなった和室には掘り炬燵もあり、利用者が思い思いに過ごせる落ち着いた雰囲気がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム備え付けの家具はベッドとクローゼットである。その他のテーブルセット、仏壇、テレビなどに関しては、利用者や家族が使い慣れた物や好みの物を持ち込んでおり、過ごしやすい位置に工夫して置いている。		